



平成29年度 企業局交通部事業概要



青森市営バス創業 90 周年記念事業「デザインバス」製作に協力していただいた
青森南高等学校の生徒（マンガ研究会 & 美術部）の皆さん

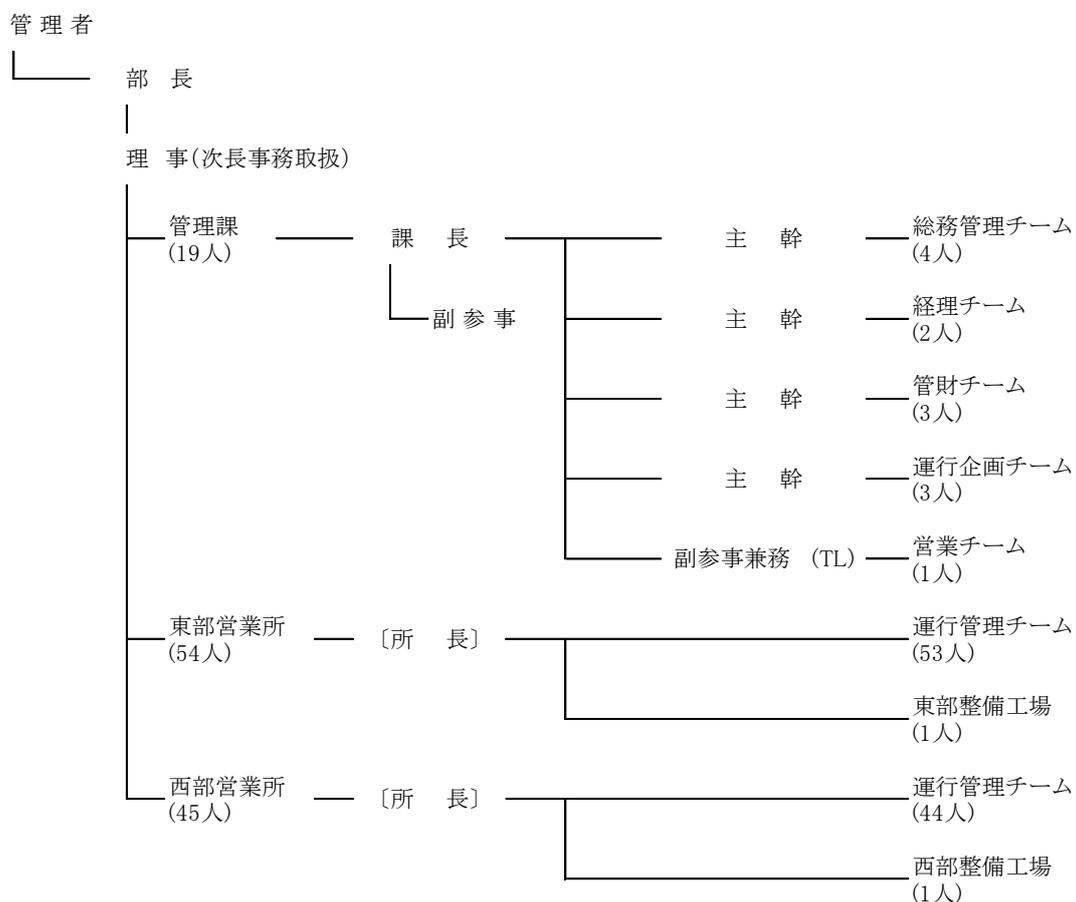
平成29年4月
青森市企業局交通部

目次

I 運営体制	2 p
1 業務組織図（平成29年4月1日現在）	
2 職員人員表（平成29年4月1日現在）	
II 重点事項	3 p
1 新たな経営改善計画の策定	
2 安全・安心・快適な輸送サービスの提供	
3 経営力の強化	
4 関係機関等との連携	
III 自動車運送事業の概要	
1 業務の予定量	4 p
2 平成29年度当初予算のポイント	5 p
IV 平成29年度実施予定の主な項目	
1 新たな経営改善計画の策定	8 p
2 安全・安心・快適な輸送サービスの提供	8 p
3 経営力の強化	11 p
4 関係機関等との連携	16 p
(参考資料)	18 p
資料1 . . . 平成29年度青森市自動車運送事業会計当初予算総括表	
資料2 . . . 一般会計からの補助金等の推移（5年間）	
資料3 . . . 営業成績の推移（5年間）	

I 運営体制

1 業務組織図 (平成29年4月1日現在) ※再任用・嘱託員・臨時職員は除く。



2 職員人員表 (平成29年4月1日現在)

	正職員	再任用職員	嘱託員	臨時職員	合計
管理者	1	—	—	—	1
部長	1	—	—	—	1
理事	1	—	—	—	1
管理課	19	1	14	4	38
東部営業所	54 (42)	17 (15)	31 (30)	—	102 (87)
西部営業所	45 (34)	14 (11)	35 (34)	—	94 (79)
合計	121 (76)	32 (26)	80 (64)	4	237 (166)

※ () 内は運転士の数

II 重点事項

1 新たな経営改善計画の策定

現状の課題や国の要請などを踏まえ、人口減少、少子高齢化による本市の公共交通への影響を考慮しながら、既存の路線網等にとらわれることなく、通勤・通学者、高齢者をはじめとする市民の方々に対し、将来にわたり安定したバス交通を提供するための視点から、これまでの内容を抜本的に見直した新たな経営改善計画の策定に向けて検討を進めます。

2 安全・安心・快適な輸送サービスの提供

「輸送の安全確保が、最大の使命」をスローガンとし、安全運転を更に徹底するとともに、接遇研修の充実などにより、安全・安心・快適な輸送サービスを提供します。

3 経営力の強化

新たなバス広告掲載の獲得をはじめとした増収対策の取組やコスト削減により、経営力の強化に努めます。

4 関係機関等との連携

関係機関等と連携を図り、公共交通機関としての役割を果たしながら、持続可能な運行体系の構築を目指します。

Ⅲ 自動車運送事業の概要

1 業務の予定量

	平成 29 年度当初予算	参考：平成 28 年度当初予算
営業路線数	36 路線	35 路線
運行系統数	156 系統	160 系統
ダイヤ数	141 ダイヤ	141 ダイヤ
バス停留所数	740 基	740 基
在籍車両数	141 両	141 両
年間走行キロ（見込み）	3,916,096 km	3,896,867 km
年間輸送人員（見込み） （1日平均輸送人員）	7,310,892 人 （1日平均 20,030 人）	7,445,938 人 （1日平均 20,400 人）

平成 29 年度は、平成 29 年 4 月のダイヤ改正を基にした路線、系統、ダイヤ数による必要車両数や走行キロ数などを見込んだ他、商業高校移転に伴う新設路線を含め、事業規模は平成 28 年度と同程度となっています。

2 平成 29 年度当初予算のポイント

【予算（税込み）】 単位：百万円

事業収益	2,482
営業収益	2,099
(生活路線維持負担金)	(399)
営業外収益	261
特別利益	122
事業費用	2,485
営業費用	2,425
営業外費用	60
特別損失	0
経常損益	△125
純損益	△3
累積欠損金	2,180

資本的収入	644
資本的支出	653
資本的収支差	△9

資金不足額	0
(資金不足比率：%)	0.0

【主な内訳(前年度比較)】

○収益

- ・ 運送収益 20.5 億円(△0.5 億円)
- ・ 他会計補助金 1.3 億円(△1.0 億円)
- ・ 長期前受金戻入 2.5 億円(0.4 億円)

○費用

- ・ 職員給与費 14.7 億円(△0.5 億円)
- ・ 経費 6.8 億円(0.0 億円)
- ・ 減価償却費 2.7 億円(0.0 億円)

【主な事業予算】

○大型ノンステップバスの購入

10 両、3.3 億円

○バスまち空間向上事業（新規）

- 待合所の整備 35 基、0.3 億円
- バス停標識更新 150 基、0.2 億円

*百万円未満を四捨五入していますので、合計が一致しない場合があります。

経常損益 = 経常収益(営業収益+営業外収益) - 経常費用(営業費用+営業外費用)

【予算の規模】

平成 29 年度の当初予算における収益的支出の事業費用は、24 億 8 千 5 百万円（対前年度 2 千 9 百万円減）、資本的支出は、6 億 5 千 3 百万円（対前年度 1 億 千 8 百万円増）の合計 31 億 3 千 8 百万円（対前年度 8 千 9 百万円増）となっています。

(※P19「【資料 1】平成 29 年度 青森市自動車運送事業会計 当初予算総括表(税込み)」参照)

[収益的収支の状況]

事業収益は、24億8千2百万円で、前年度に比べ9千百万円減少しています。

営業収益は、福祉負担金の減少などの影響による減収分を見込んだため、20億9千9百万円となり、前年度に比べ2千2百万円減少しています。

営業外収益は、退職者数の減に伴う他会計補助金の減額などにより、2億6千百万円となり、前年度に比べ1億8百万円減少しています。

また、特別利益は、過年度分に係る長期前受金戻入の増加により、1億2千2百万円となり、前年度に比べ4千万円増加しています。

一方、事業費用は、24億8千5百万円で、前年度に比べ、2千9百万円減少しています。

このうち、営業費用は、新規事業のバス停標識購入費や車両の外注修繕費などが増加したものの、職員給与費や委託ダイヤの減などにより、24億2千5百万円となり、前年度に比べ4千2百万円減少しています。

その結果、経常損益は1億2千5百万円の赤字となりましたが、特別利益を加えた純損益は、3百万円の赤字に止まりました。

[累積欠損金と資金不足比率]

平成29年度の累積欠損金は、21億8千万円となり、前年度に比べ5千万円減少しています。

前年度8千3百万円あった資金不足額は、平成29年度で解消することとなり、その結果、公営企業の健全度を示す資金不足比率は、前年度に比べ3.8ポイント改善し、0%になりました。

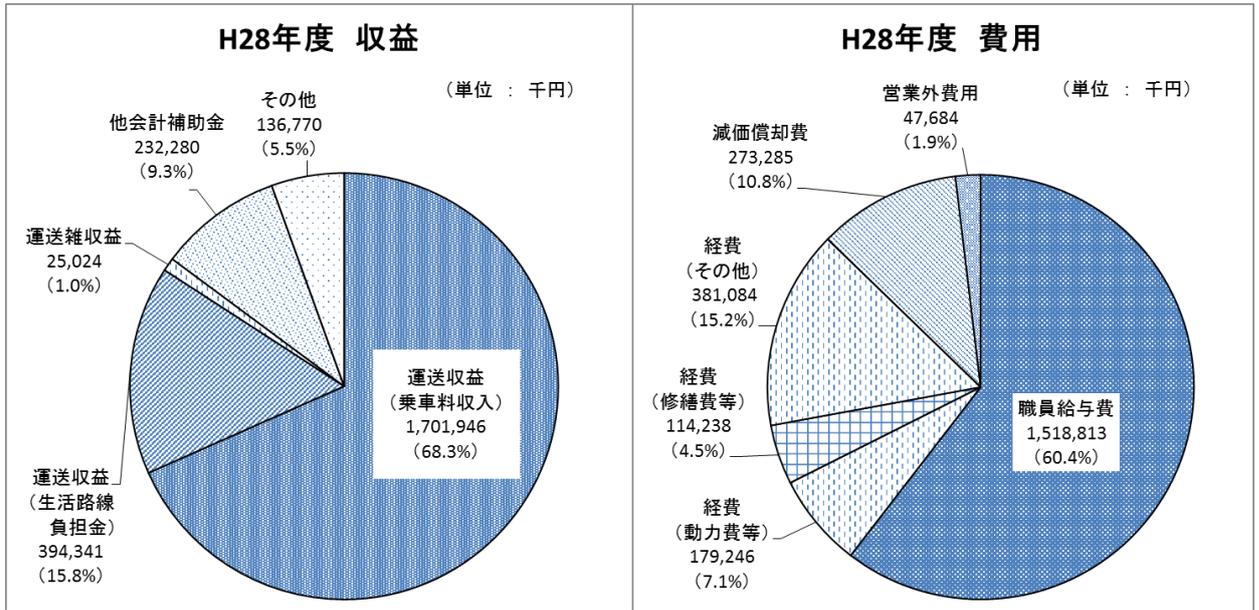
[資本的収支の状況]

収入は、6億4千4百万円で、前年度に比べ1億千6百万円増加しており、支出は、6億5千3百万円で、前年度に比べ1億千8百万円増加しています。

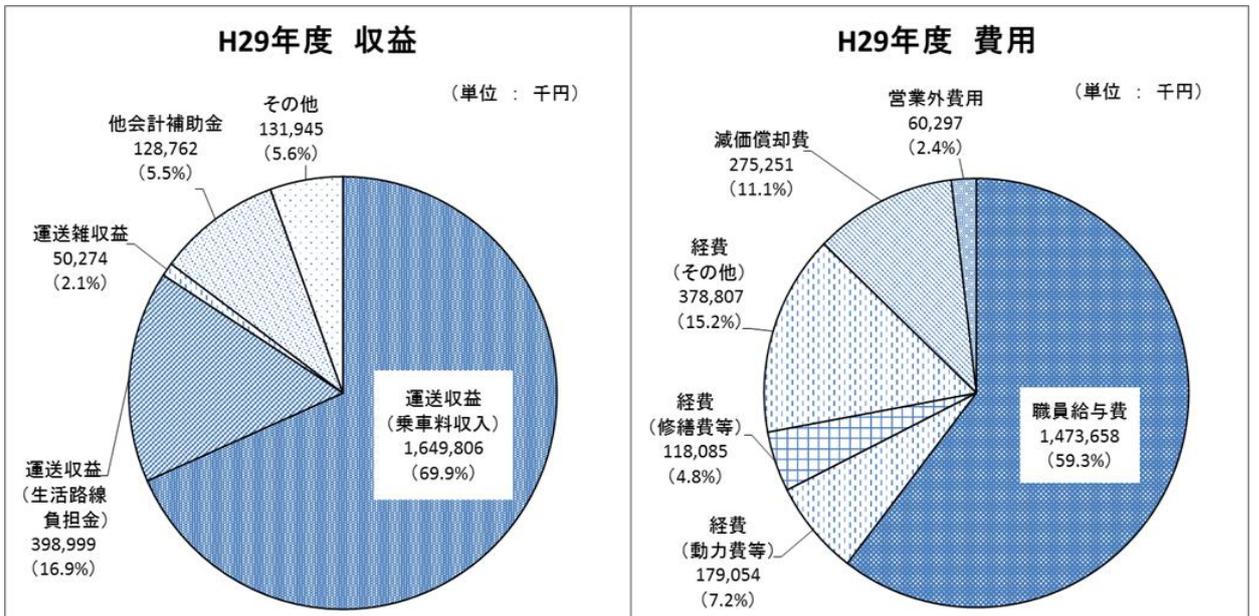
収支とも増加しましたが、その主な要因は、支出の増加に連動した財源の増加によるものです。

支出増の理由は、建設改良費のうち、バス購入費用は、前年度同様、大型ノンステップバス10両を予定していますが、老朽化した運賃箱の更新分も含むことから、価格が上昇したことと、新規事業のバスまち空間向上事業に係る待合所の新築・改築費用が追加されたことに加え、企業債償還金も平成27・28年度のバス購入に係る元金償還の開始により増加するためです。

【経常収支の内訳及び割合（平成28年度当初予算）】



【経常収支の内訳及び割合（平成29年度当初予算）】



IV 平成 29 年度主要施策

1 新たな経営改善計画の策定

地方財政をめぐる厳しい状況が続く中、地方公営企業の経営も厳しさを増しており、国においては、経営基盤の強化と財政マネジメント向上のための中長期的な視点に立った「経営戦略」を平成 32 年度までに策定し、廃止・民営化や広域的な連携も含めた抜本的な改革を進めるよう、自動車運送事業を含む地方公営企業に要請しており、交通部においてもこれまでの取組や現状の課題、国の要請などを踏まえ、これまでの内容を抜本的に見直した新たな経営改善計画の策定に向けて検討を進めます。

2 安全・安心・快適な輸送サービスの提供

2-1 安全性の強化

(1) 運輸安全マネジメントの推進

平成 18 年 10 月、輸送の安全確保に向け、基本方針、重点施策、計画等を定めた「安全管理規程」を制定し、ヒヤリ・ハット情報の収集・活用、乗務員に対する研修等を実施しながら、重大事故の防止や車内事故等の削減に努めています。

さらに平成 29 年度は、エコドライブ運動として「エコ De 安心！ドライブ宣言」を通年実施するほか、安全対策の強化や安全運転の推進、トラブル発生時の迅速な解決など、安全管理上有効なドライブレコーダーの活用方法と導入について検討を進めます。

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
運輸安全マネジメントの推進	安全運転講習会等の継続実施		
	ドライブレコーダーの試験運用	ドライブレコーダーの活用方法・導入検討	
			エコ De 安心！ ドライブ宣言

[これまでの事故発生件数の推移]※H29. 3. 31 現在

	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
重大事故	0 件	0 件	0 件
有責事故	2 2 件	2 2 件	1 3 件
うち車内事故	5 件	6 件	3 件

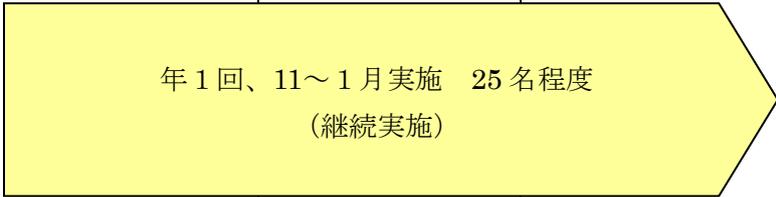
参考①：重大事故とは、自動車事故報告規則第 2 条に規定されている「転覆」「転落」等の事故に該当するものです。

参考②：車内事故とは、車内で発生した転倒やドア操作ミスによる負傷事故等です。

参考③：一部路線の運行管理を受託している弘南バス(株)の事故件数を含めています。

(2) 市営バスモニター制度の継続実施

日常バスを利用しているお客様から、運転操作、接客状況等をチェックしていただく「市営バスモニター制度」を引き続き実施し、運転技術の向上と接客サービスの向上に努めます。

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
市営バスモニターの実施			

2-2 利便性の向上

(1) 需要に応じた路線・ダイヤの設定・見直し

次回のダイヤ改正にあたっては、市民ニーズを踏まえた、路線や始発・終発時間の見直し、鉄道との乗継ぎの利便性等を考慮しながら、効率的なダイヤ編成に努めます。

(2) 臨時的な需要への対応

ねぶた祭、お盆などの行事に伴う臨時便を運行するほか、イベント主催者等からの要請に可能な限り応えていきます。

(3) 利用者に配慮した時刻表の改善

バス停留所に掲示している通過時刻表について、バス停留所毎の便数等にあわせ文字を大きくするなど、見やすい表示に努めます。

(4) バスマち空間の向上

利用者を風や雨雪から守るための待合所の整備・改修や、ご高齢の方や外国人観光客にも優しい、文字が大きく、多言語にも対応したバス停標識の設置等について、市民バスの運行ルートも含めて順次実施します。

2-3 サービス・マナーの向上

(1) 接客研修の充実

職員の接客能力や車内アナウンス能力の向上を図るため、外部講師による研修を引き続き実施します。

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
接客研修の充実	外部講師による研修 (H25～継続実施)		
	車内アナウンス研修の充実 (H27～継続実施)		

(2) お客様にやさしいバスの導入

交通部では、子どもから高齢者まで様々な方がスムーズに乗り降りできるよう、お客様にやさしい大型ノンステップバスを導入しており、平成 29 年度は 10 両の導入を予定しています。

[新車バスの導入状況]

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
お客様にやさしい バスの導入	新車バスの導入 (継続実施)		
	ノンステップ (中型 15 両)	ノンステップ (大型 10 両)	ノンステップ (大型 10 両予定)

[ノンステップ・ワンステップバスの導入実績]

区 分	平成 27 年度 決算	平成 28 年度 決算見込み	平成 29 年度 決算見込み
バス車両数 (台)	1 3 9 (53)	1 4 1 (53)	1 4 1 (52)
ノンステップバス	1 7 (15)	2 7 (15)	3 7 (15)
ワンステップバス	5 1 (37)	5 1 (37)	5 1 (37)
導入割合 (%)	4 8 . 9	5 5 . 3	6 2 . 4

参考①：() は中型バスの台数で内数です。

参考②：合計バス車両数は、ツースtepバスの台数を含んでおります。

3 経営力の強化

3-1 増収対策

(1) 通勤定期券の販売促進

通勤定期券所持者と同伴者が土・日・祝日等に市営バス料金を 100 円で利用できる通勤定期券所持者特別割引制度「エコ 100 定期」を継続実施し、土・日・祝日及びお盆 (8/13~8/15)・年末年始 (12/29~1/3) の利用と通勤定期券の販売を促進します。

(2) 中学校等におけるフリールートカードの活用促進

中学校などの校外学習用として、お得なフリールートカード (700 円/日) の活用を促進するため、市中学校長会研修会での PR に取り組みます。

(3) 運転免許自主返納者支援事業

平成 29 年度においても、青森県警が高齢者等の交通事故の削減を目的に実施している運転免許自主返納事業に賛同し、運転免許自主返納者に対し 5,000 円相当のバスカードを提供することで、マイカーから市営バスへの転換の促進と高齢者等による交通事故の防止に取り組みます。

(4) 小学生以下の児童を対象とした「バス乗り方教室」の実施【新規】

将来的な利用者拡大と家族でのバス利用促進及び子どもたちの交通事故抑止を目的とした「バス乗り方教室」を実施します。

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
増収対策	エコ100定期 (H27～継続)		
	校外学習用フリールートカードPR (継続実施)		
	運転免許自主返納者支援事業 (継続実施)		
			バス乗り方教室 (H29～新規)

(5) 広告料収入の確保【新規】 (平成29年1月より先行実施)

「トップセールス」の実施や専属チームによる積極的な営業活動により、バス広告の スポンサー獲得の強化を図るとともに、新たに設置するバス待合所やバス停留所標識についても広告スペースを設け、更なる広告料収入の確保に取り組みます。

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
広告料収入の確保に向けた取組	広告取扱い業者へのPR等 (継続実施)		
		専属チームによるバス広告の営業強化 (継続実施)	

(6) 市営バスのイメージアップ

市営バスへの理解と親しみを深めていただくため、バス車内への市内小学校の版画の展示や、福祉団体等と連携した車いす乗車体験会の開催、バスまつり等のイベントにおける運転席乗車体験や車いす乗車体験を実施します。

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
市営バスのイメージアップに向けた取組	版画ミニギャラリーバス運行 (継続実施)		
	車いす乗車体験会 (継続実施)		
	イベント時の運転席乗車体験及び車いす乗車体験 (継続実施)		

3-2 経営の効率化

(1) 人件費の抑制

引き続き正職員運転士の退職者不補充を継続しますが、現行のダイヤを維持するためには、最低限の運転士数の確保が必要であることから、不足分は嘱託運転士により補充し、人件費の抑制に努めます。

[職員数の推移(当初)] ※管理者除く

区 分	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度 計画
運転士	200	188	173	169	167	172
正職員	118	108	100	94	86	76
再任用職員	23	29	24	26	29	26
嘱託員	59	51	49	49	52	70
整備士	2	2	4	4	4	4
正職員	2	2	4	4	4	2
再任用職員	—	—	—	—	—	2
事務職員	54	63	64	64	64	64
正職員	45	44	42	42	42	41
再任用職員	2	2	3	3	3	4
嘱託員	0	10	12	13	13	15
臨時職員	7	7	7	6	6	4
職員総計	256	253	241	237	235	240

【参考指標：人件費比率（％）（職員給与費 / 営業収益*100）】

営業収益（売上）と職員給与費（退職給付引当金含む）の対比で、割合が低いほど生産性が高いことを示します。

平成 29 年度は、正職員数の減少と給与減額の実施に加え、退職者数により年度間で差異が生じる退職給付引当金が減少したことから改善しています。

（各年度とも税込み額で算出）

指 標 名	平成 27 年度 決算	平成 28 年度 当初予算	平成 29 年度 当初予算
人件費比率（％）	69.4	71.6	70.2

（２）経費の削減

平成 29 年度予算では、乗務員については、引き続き退職者不補充を継続するものの、委託ダイヤ数の減少に伴う乗務員不足を補うために、嘱託職員を新たに採用することにより、全体では 5 人増加となりますが、経費の削減に努めた結果、経常費用を前年度当初予算比で 98.8%に抑制しました。

引き続き計画的かつ効率的な予算執行を行い、一層の経費削減に努めます。

【参考指標：経常収支比率（％）（経常収益 / 経常費用*100）】

経常的活動の能率性を示すもので、100%を超えると黒字になります。

経費削減に継続して取り組んでいるものの、平成 29 年度は、退職者の減少による補助金の減額及び乗車料収入の減少により低下しています。

（各年度とも税込み額で算出）

指 標 名	平成 27 年度 決算	平成 28 年度 当初予算	平成 29 年度 当初予算
経常収支比率（％）	106.2	99.0	95.0

(3) 車両の効率的な運用

計画的な車両の整備や車両の納入時期に合わせた廃車、各営業所における適正な配車など、車両の効率的な運用に努め、実働率の向上を図ります。

[バス車両数の推移と実働率の推移]

区 分		平成 27 年度 決算	平成 28 年度 決算見込み
稼働車両数 (延べ台数) A		37,054	37,365
実在車両数 (延べ台数) B		49,154	50,874
実働率 (%) A/B		75.4	73.4
参 考	路線数	35	35
	ダイヤ数	141	141
	車両数	139	141

3-3 組織の活性化

(1) 業務への意欲と良好なコミュニケーションの確保

市営バスモニター制度などでお客様から良い評価を受けた職員を表彰するなど、職員一人一人の業務意欲を高めていくとともに、乗務員と管理部門職員とのコミュニケーションの場をつくり、日頃から情報交換がしやすい職場環境づくりに取り組めます。

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
優秀な職員の表彰	無事故・無違反表彰 (継続実施)		
	優良運転者表彰 (継続実施)		
	スマイルドライバー表彰 (継続実施)		

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
乗務員との意見交換の場の設定	経営層との対話集会など (継続実施)		

4 関係機関等との連携

(1) 関係機関等との連携による効率的運行

これまでの運行ダイヤの民間委託に加え、市の行政施策等との連携を深めながら、バス交通ネットワークの再編等、より効率的な運行を検討していきます。

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
運転管理に関する民間委託の実施 (運行管理の受委託)	委託ダイヤ数 4月～9月：15 10月～3月：15	委託ダイヤ数 4月～9月：15 10月～3月：15	委託ダイヤ数 4月～9月：11 10月～3月：11

(2) 市環境施策との連携

市では、(株)西田組、(株)マエダとの間で三者協定を締結し、家庭から排出される廃食用油をバイオディーゼル燃料(BDF)としてリサイクルする取組を推進しています。

交通部としても、企業としての環境への貢献、さらには市が推進するリサイクル活動への貢献といった観点から、平成26年度から実施しているBDFを活用した市営バスの運行を平成29年度も引き続き実施します。

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
バイオディーゼル燃料(BDF)の市営バスへの活用	2両 約 12,000ℓ		

(参考) 使用期間 … 4月から10月まで

(3) 交通安全推進に向けた関係機関との連携

例年、交通部では、全国交通安全運動や交通安全県民運動、バス無事故運動などと連携した重点目標に基づき、のぼり、ポスターの営業所及びバス車内等への掲示、交通指導隊員による歩行者や車両を対象とした安全誘導など、交通安全の推進に取り組んでいます。

また、平成28年度に引き続き平成29年度においても、青森県警が高齢者等の交通事故の削減を目的に実施している運転免許自主返納事業に賛同し、運転免許自主返納者に対し5,000円相当のバスカードを提供することで、マイカーから市営バスへの転

換の促進と高齢者等による交通事故の防止に取り組みます。

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
交通事故防止のための 取組	【継続実施】交通安全運動との連携		
	○交通安全スローガンの設定 ○交通安全運動のぼりの設置 ○交通安全運動ポスターの掲示 ○交通指導隊員による安全誘導		
	運転免許自主返納者支援事業 (継続実施)		

參考資料

【資料1】

平成29年度 青森市自動車運送事業会計 当初予算総括表(税込み)

(単位:千円、%)

科 目		収 益		増減率	
科	目	H28当初予算	H29当初予算	増減額	増減率
運送収益	乗合	2,096,287	2,048,805	△ 47,482	△ 2.3
	計	2,096,287	2,048,805	△ 47,482	△ 2.3
	広告料	24,695	50,000	25,305	102.5
	雑収益	329	274	△ 55	△ 16.7
営業収益	計	25,024	50,274	25,250	100.9
営業外収益	小計	2,121,311	2,099,079	△ 22,232	△ 1.0
	他会計補助金	232,280	128,762	△ 103,518	△ 44.6
	補助金	2,600	2,200	△ 400	△ 15.4
	その他	134,170	129,745	△ 4,425	△ 3.3
営業外収益	小計	369,050	260,707	△ 108,343	△ 29.4
経常収益	小計	2,490,361	2,359,786	△ 130,575	△ 5.2
	常収支	△ 23,989	△ 125,366	△ 101,377	422.6
	固定資産売却益	0	0	0	-
	その他	82,953	122,574	39,621	47.8
特別利益	小計	82,953	122,574	39,621	47.8
	事業収益合計	2,573,314	2,482,360	△ 90,954	△ 3.5
	損益	58,964	△ 2,792	△ 61,756	△ 104.7
	累積欠損金	2,229,340	2,179,537	△ 49,803	△ 2.2
資本的収入	企業債	290,500	324,300	33,800	11.6
	国(県)補助金	0	0	0	-
	他会計補助金	235,895	319,173	83,278	35.3
	固定資産売却代金	1,411	0	△ 1,411	皆減
収入	投資	383	479	96	25.1
	負担金	0	0	0	-
	計	528,189	643,952	115,763	21.9
	資金不足額	82,730	△ 1	△ 82,731	△ 100.0
資金不足比率(%)	3.8	0.0	-	-	
支 出		費 用		増減率	
科	目	H28当初予算	H29当初予算	増減額	増減率
営業費用	基本給	553,879	514,972	△ 38,907	△ 7.0
	退職手当	126,516	82,833	△ 43,683	△ 34.5
	その他	838,418	875,853	37,435	4.5
	計	1,518,813	1,473,658	△ 45,155	△ 3.0
経費	動力・燃料・油脂	179,246	179,054	△ 192	△ 0.1
	部品・材料・外注	114,238	118,085	3,847	3.4
	その他	381,084	378,807	△ 2,277	△ 0.6
	計	674,568	675,946	1,378	0.2
減価償却費	小計	273,285	275,251	1,966	0.7
	支払利息及び企業債取扱諸費	2,466,666	2,424,855	△ 41,811	△ 1.7
	繰延勘定償却	1,840	1,530	△ 310	△ 16.8
	その他	45,844	58,767	12,923	28.2
営業外費用	小計	47,684	60,297	12,613	26.5
	常費用計	2,514,350	2,485,152	△ 29,198	△ 1.2
	過年度損益修正損	0	0	0	-
	特別損失				
事業費用合計	小計	2,514,350	2,485,152	△ 29,198	△ 1.2
	建設改良費	298,716	358,528	59,812	20.0
	企業償還金	235,895	294,173	58,278	24.7
	投資	500	500	0	0.0
支出	他会計長期借入金返還金	0	0	0	-
	計	535,111	653,201	118,090	22.1
	資金不足額				
	資金不足比率(%)				

※千円未満四捨五入

【資料2】

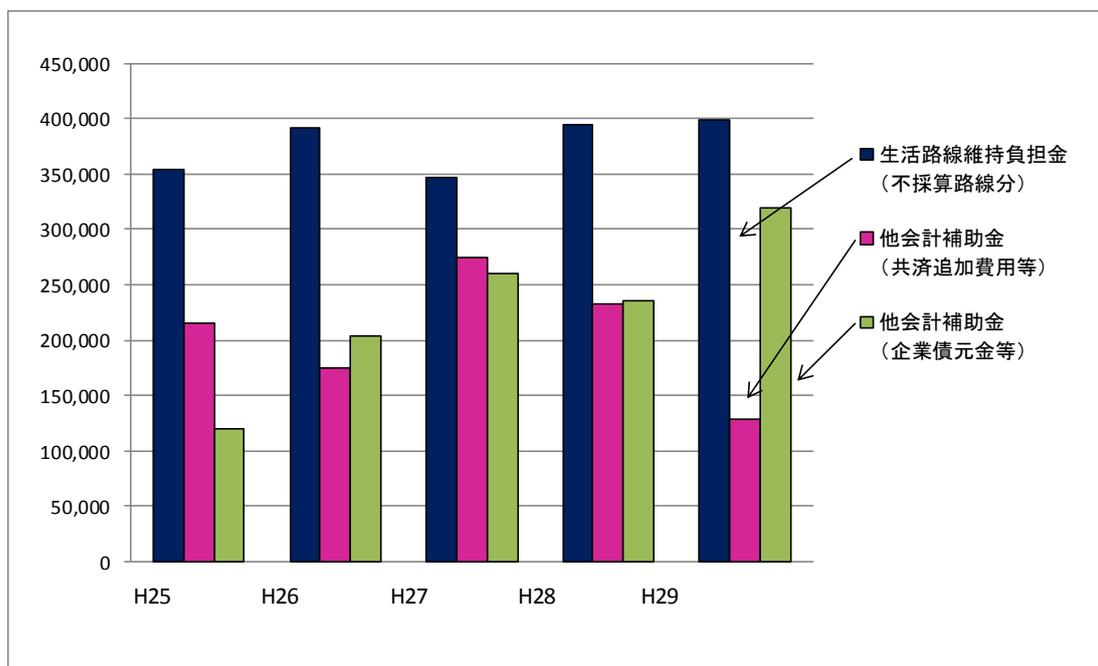
一般会計からの補助金等の推移（5年間）

事業収入をもって充てることが適当でない又は困難な経費については、地方公営企業法により、一般会計が負担することとしており、交通事業においては、不採算路線の維持に係る経費や企業債の償還分などを繰入れしています。

【一般会計繰入金の内訳】

（単位：千円）

繰入区分		平成25年度 (決算)	平成26年度 (決算)	平成27年度 (決算)	平成28年度 (当初予算)	平成29年度 (当初予算)
収 益 入 的	生活路線維持負担金 (不採算路線分)	354,428	391,913	347,254	394,341	398,999
	他会計補助金 (共済追加費用等)	215,619	174,388	274,180	232,280	128,762
収 資 本 入 的	他会計補助金 (企業債元金等)	119,588	203,199	259,936	235,895	319,173
合 計		689,635	769,500	881,370	862,516	846,934



他会計補助金(3条予算:共済追加費用等)は、退職手当に係る補助金が含まれており、H29年度は前年度に比べ退職者が7名減少したことから、約1億4百万円減少しています。
生活路線維持負担金は、不採算路線の維持や経営の安定化などに対する市の負担金で、各年度の運行ダイヤや路線別の収支状況、物価変動などの影響を受けるものです。
H29年度は、乗車料収入の減少などにより、約5百万円増加しています。
他会計補助金(4条予算:企業債元金等)は、H22年度から計画的に更新しているバス車両等の元金償還(5年償還)に対する補助金で、H29年度は、H27・H28年度借入分の償還が開始することに加え、バス待合所整備に係る経費に対する補助金を計上したため、約8千3百万円増加しています。

【資料3】

営業成績の推移(5年間)

H25～H27は決算額(税抜)、H28～H29は予算額(税込)

区分	年度	H25	H26	H27	H28 (当初予算)	H29 (当初予算)	備考
営業	キロ (km)	235.6	216.0	216.0	216.0	216.0	
	運転車両数 (両)	146	132	139	141	141	
運転走行	キロ (km)	3,859,474	3,513,622	3,388,469	3,386,234	3,370,456	※実車 [*]
総運転走行	キロ (km)	4,499,516	4,084,709	3,906,459	3,896,867	3,916,096	※実車 [*] + 回送 [*]
乗車人員	(人)	8,184,444	7,546,952	7,361,738	7,445,938	7,310,892	
乗車料収入	(千円)	1,751,109	1,659,509	1,580,467	1,701,946	1,649,806	
在籍職員	人数 (人)	183	172	169	163	152	※職員数には管理者を含み、嘱託職員・臨時職員は含まない
	運転走行キロ (km)	10,574	9,626	9,258	9,277	9,234	
一日平均	総運転走行キロ (km)	12,327	11,191	10,673	10,676	10,729	
	乗車人員 (人)	22,423	20,677	20,114	20,400	20,030	
	乗車料収入 (千円)	4,798	4,547	4,318	4,663	4,520	
収益的収支	収入 (千円)	2,384,079	2,481,019	2,478,102	2,573,314	2,482,360	
	支出 (千円)	2,567,734	3,595,578	2,365,965	2,514,350	2,485,152	
	損益 (千円)	△ 183,655	△ 1,114,559	112,137	58,964	△ 2,792	
	累積欠損金 (千円)	1,615,257	2,393,574	2,281,436	2,229,340	2,179,537	
	資金不足比率 (%)	13.0	12.3	8.2	3.8	0.0	